

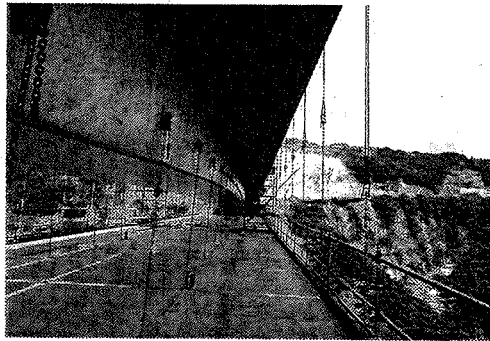
日刊 建設工業新聞

熊本地震の橋梁復旧工事に採用

日綜産業「クイックデッキ」

日綜産業の新型システムつり足場「クイックデッキ」写真Ⅱが熊本地震の復旧・復興に貢献している。熊本県南阿蘇村で富士ピーエスが施工する阿蘇長陽大橋の復旧工事現場に採用。災害復旧という特殊かつ早期の完成が求められる現場で高い施工性により工期短縮に寄与し、安全確保の面でも作業員から好評を得ている。

クイックデッキは日綜産業のヒット商品である「3Sシステム」の機能を付加した手すりや支柱、アルミ製床板、オリジナルL型幅木など独自技術を組み合わせた先行床施工式フロア型システムつり足



工期短縮・安全確保に寄与

場。熊本県内での採用は熊本地震で被災した自動車メーカーの工場の復旧工事に次いで2件目となる。

阿蘇長陽大橋はPC4径間連続ラーメン箱桁橋で橋長276㍎。熊本地震により橋台の沈下、橋脚のひび割れや剝離、上部工の主桁端部の支承周辺の損傷などの被害を受けたため、炭素繊維シートによる補強やひび割れの補修、断面修復などを行っている。

同現場では施工性と安全性、作業性を考慮し、発注者と協議してクイックデッキを採用した。納入数量は2300平方㍎。組み立て期間を一時的なつり足場の3分の1を図っている。

現場では4分の1程度に短縮できたほか、今後の解体についても2径間分のおよそ150㍎を1週間程度で終えられると見込んでいる。

富士ピー・エスの三原真一現場代理人によると「フラットの足場を組めるため、通常の足場より安全な印象を受ける。危険作業が少なくなり、施工性もだいたい」という。

日綜産業によるとクイックデッキの納入・稼働実績は200現場以上。国土交通省の新技术情報提供システム(NETIS)にも登録されており、今後も橋梁などの点検や保守などを中心に市場の拡大を図っていく意向だ。

建設通信新聞

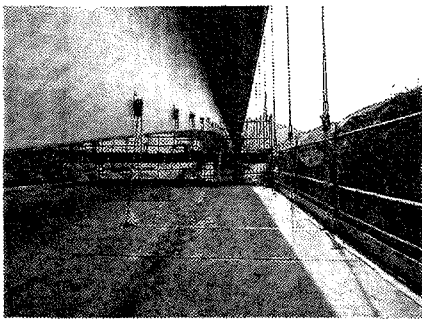
発行所 日刊建設通信新聞社
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町3-13-7
電話(03)3259-8711
FAX(03)3259-8730
©日刊建設通信新聞社 2017

富士ピー・エス

橋梁補修に採用

日綜産業クイックデッキ

2016年熊本大地震による被害を受けて通行止めとなっている阿蘇長陽大橋の補修工事に日綜産業の先行床施工式フロア型システム吊足場「ク



広い作業空間が確保できるクイックデッキ

イックデッキ」が採用され、現場の安全性向上や工期短縮に効果を発揮している。九州地方整備局熊本復興事務所が事業を進め、富士ピー・エスが施工している。

阿蘇長陽大橋は橋長276・5桁のPC4径間連続ラ



三原現場代理人(左)と平野支店長

メン箱桁で、橋台周辺の斜面が大規模に崩壊した影響でA1橋台が沈下したほか、橋脚で貫通ひび割れや剥離(はくり)が生じ、上部工も主桁端部の支承周りが損傷した。主桁の補修はコンクリートの引張耐力を確保するため、ひび割れ注入と炭素繊維シートによる補強を行った。この炭素繊維シート設置に吊り足場が必要となり、「クイックデッキ」が採用された。

富士ピー・エスの三原真一

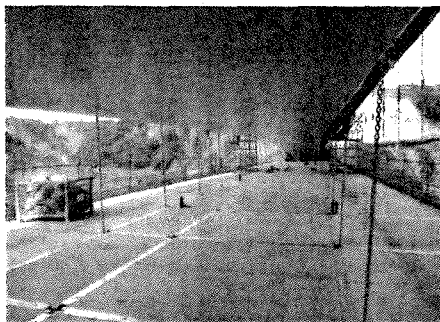
現場代理人は「インサートアンスターの設置数が少なく、ワンピースで組み立てられる。単管足場に比べて工期は3分の1から4分の1に収まっている」と施工性の高さを評価する。実際に組み立てた職人も「部材が少なく手間がかからないため、特別な技術はいらない。安全性も高い」と話す。

クイックデッキは国土交通省のNETIS(新技術情報提供システム)に登録済みで、これまでに納入・稼働中の現場は200件を超えた。九州・沖縄地区は9例目となる。

日綜産業「クイックデッキ」 熊本県の橋梁向け初採用

【熊本】軽仮設大手の日綜産業(本社||東京都中央区、小野大社長)は、国土交通省九州地方整備局立野ダム工事事務所(現熊本復興事務所)発注「平成28年度災害復旧立野地区外橋梁補修工事」のうち1橋の阿蘇長陽大橋に新型システム吊り足場「クイックデッキ」が約2300平方メートル用されたと発表した。熊本県の橋梁向けでは初めての採用。

最大5×5メートル吊りチェーン間隔が広く、段差や隙間のない快適な作業空間を構築できる。施工する富士ビル・エスの現場代理人、三原真一氏は同製品について「フラットで隙間のない足場が組める



フラットで快適な作業空間を構築

ことから安全。通常の単管足場に比べて組み立ての時間は体感で3分の1」と語り、足場

デッキは国交省のNETIS(新技術情報システム)登録済み(登録番号||TH-150

を組み立てた業者の担当者は「単管足場とは違い特別な技術が必要とせず、手間も少なくスピードは3-4倍」と評価。クイック

0071A)。14年6月の発表以来、納入・稼働中の現場は200件以上となり、大型商業施設や工場天井部の新築・改修工事、新幹線高架の改修工事など幅広く採用されている。数多くの実績に加え、作業の安全確保や優れた機能性・施工性をアピールし、老朽化により今後増加が見込まれる橋梁の点検や補修など需要の捕捉を進めた

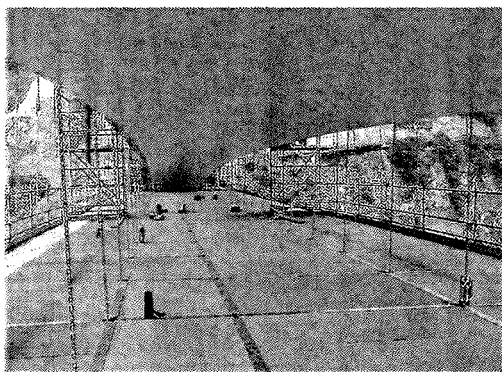
九建日報

発行所
株式会社 九建日報社
〒812-0018 福岡市博多区住吉5-9-19
電話 代表092(431)5361 番
FAX 092(431)7613 番
購読料1ヵ月7,020円

北九州支局 TEL 093(921)5011
長崎支局 TEL 095(827)5595
熊本支局 TEL 096(273)8708
大分支局 TEL 097(594)0518
宮崎支局 TEL 0985(24)6688
鹿児島支局 TEL 099(259)3426
<http://www.kyuukennippou.co.jp>

立野地区 橋梁補修現場を見学 吊り足場クイックデッキ採用

日綜産業



日綜産業(株)(本社・東京都中央区、小野大代表取締役社長)は26日、報道関係を対象とした『NISSOプレス会現場見学会』を熊本県南阿蘇村の平成28年度災害復旧立野地区外橋梁補修工事(施工(株)富士ピー・エス)現場で開催した。

昨年4月の熊本地震で被災した『阿蘇長陽大橋』の改修を含む同工事で同社の新型システム吊り足場『クイックデッキ』が採用され活躍。平成26年6月の発表以来、当初計画を大きく上回る好調な出足を見せている。作業の安全性はもちろん、機能性や施工性など従来製品を上回る特性や最近建設現場で悩みとなっている建設技能労働者不足に威力を発揮するのにも好調要因となっている。

械工場の天井改修、新幹線高架の改修工事など多岐にわたる。特に天井改修工場で、工場の稼働させながら改修工事ができる点が発注者に評価されている。

製品の特長として、基本構成部材は全てシステム化されており専用工具を必要とせず人力で組立てが可能なことや、トラス構造により高い強度と軽量化を実現したジョイント(主梁)と専用の高強度チェーンの組み合わせにより最大積載荷重350kg/m²、最大吊りチェーンピッチ5m×5mを実現している。また、高い部材剛性と水平旋回式の組立て方法により吊点からの跳ね出し最大5mの先行床施工で作業床を高所での危険作業なしで安全に施工が可能となっている。

IS)登録が完了し、これを契機に今後到来するメンテナンス時代に向けて橋梁等の点検・補修等の公共工事に市場拡大を図るとしている。

今回の現場でクイックデッキを採用するにあたり、試験施工で安全性・施工性を確認した。富士ピー・エス三原真一現場代理人によると、安全に施工できることはもちろん、工期も従来製品の1/3~1/4に短縮できたとぞうだ。また、フルフラットな床面になるため、完全に安定した足元が確保できるので作業効率もアップしている。実際に施工した下請け業者は「その施工性に完全に満足している。これといった課題も見つけない」とし、また「極端に言えば、だれにでも施工できる簡易さも魅力だ」とした。

(写真はクイックデッキ施工現場)

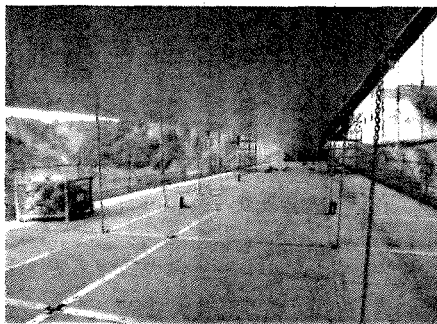
日綜産業「クイックデッキ」

熊本県の橋梁向け初採用

【熊本】軽仮設大手の日綜産業(本社=東京都中央区、小野大社長)は、国土交通省九州地方整備局立野ダム工事事務所(現熊本復興事務所)発注「平成28年度災害復旧立野地区外橋梁補修工事」のうち1橋の阿蘇長陽大橋に新型システム吊り足場「クイックデッキ」が約2300平方メートル用されたと発表した。熊本県の橋梁向けでは初めての採用。

最大5×5メートル吊りチエーン間隔が広く、段差や隙間のない快適な作業空間を構築できる。施工する富士ビル・エスの現場代理人、三原真一氏は同製品について「フラットで隙間のない足場が組める

ことから安全。通常の単管足場に比べて組み立ての時間は体感で3分の1」と語り、足場



フラットで快適な作業空間を構築

デッキは国交省のNETIS(新技術情報システム)登録済み(登録番号=TH1150

を組み立てた業者の担当者は「単管足場とは違い特別な技術が必要とせず、手間も少なくスピードは3-4倍」と評価。クイック

007-A)。14年6月の発表以来、納入・稼働中の現場は200件以上となり、大型商業施設や工場天井部の新築・改修工事、新幹線高架の改修工事など幅広く採用されている。数多くの実績に加え、作業の安全確保や優れた機能性・施工性をアピールし、老朽化により今後増加が見込まれる橋梁の点検や補修などに必要な捕捉を進めたい考え。